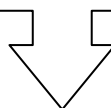


東日本大震災に伴うバージョンアップの考え方について（案）

【 状況認識 】

- ・ 東日本大震災を受けて、家庭内や地域コミュニティでの「支え合い」「助け合い」などといった「つながり」「きずな」の重要性が再確認された。
- ・ また、災害発生時には、住民の自助・共助の重要性、住民や地域と連携して初動体制を構築し救助活動などを円滑に推進する自治体のコーディネート力の必要性が明らかとなるとともに、地域における防災力の強化、減災の取組、初動から復旧・復興に移行するための準備など平常時からの取組の必要性が再認識された。
- ・ さらに、原発事故の影響による電力需給逼迫などによって、エネルギーセキュリティの確保が課題となり、また、市民においてもライフスタイルの見直し・エネルギーに対する考え方の変化が見られるようになった。



【 理念編についての考え方 】

- ・ 「なにわルネサンス 2011」では、「地域から市政を変える」という基本的な考え方のもと、地域での「つながり」「きずな」を再構築し、地域における様々な活動主体による多様な協働によって支えられる地域社会を作り上げることを目指しており、東日本大震災を受けて求められる観点については、既に概ね取り入れられており、その方向性が改めて確認されたものと考えられる。
- ・ こうしたことから、現時点では、「理念編」の基本的な考え方の本質は維持しつつ、今後の影響を見守ることとする。

【 実施編についての考え方 】

- ・ 東日本大震災によりその必要性が再認識された、地域における防災力の強化、減災の取組、初動から復旧・復興に移行するための準備など平常時からの取組の今後の推進や、市民のライフスタイルの見直し・エネルギーに対する考え方の変化などについては、「なにわルネサンス 2011」の具体的な取組やその背景となっている社会経済環境への影響が考えられる。
- ・ こうしたことから、「実施編」の「総論部分」に今後具体的な取組を進めるに当たって留意すべき視点等を盛り込むことを検討する。
- ・ 併せて、「実施編」の具体的な取組事項の追加や現在の取組事項の修正を検討する。